

『青空工房』ってなに？



青空工房は、京都市聴覚言語障害センターと併設している、聞こえとことばに障害を持つ人が利用されている通所施設です。一般に『聴覚障害』と言われていますが、聞こえ方はそれぞれ違い、それによるコミュニケーション手段も手話・口話・筆談・身振りなどさまざまです。

今回展示することになったこれらの作品は、日々の生活介護事業の取り組みで行っている紙漉きの工程を生かし、一人ひとり独自のやり方で創りあげたものです。大きな紙(菊判サイズ)を漉くのも初めてのことでしたが、漉く・拭く・こねる・穴をあける・破る・色を付ける・紐(針金)を通す・結ぶという一つひとつの工程を、みんなで共同して完成させました。

手漉き紙本来の味わいに青空工房利用者一人ひとりの『手』が加わり、見ているだけでおもしろい、どうやってできているの？これが紙？！と不思議な感覚にとらわれるかもしれません。

この機会にぜひみなさままでお越しいただき、青空工房の紙の空間に触れてみてください。



2019年9月

京都市西ノ京障害者授産所 青空工房
利用者・職員一同